



令和3年度 閉校記念誌

明けゆく

未来へ



下田市立稲梓中学校



下田市立稲梓中学校長
山本 憶久

閉校にあたって

今を遡ること七十五年前、昭和二十二年春に稲梓村立稲梓中学校は創立されました。その際、「養英材」と揮毫された扁額を高塚錠二氏よりいただき、校長室に掲げられ続けてきました。「英材」とは、単に学問に秀でていくだけでなく、しなやかで豊かな人間性、さらには困難や苦況に立ち向かう強い身体をも備えた人材を意味しています。稲梓の文化風土の中で「英材」を「養」ってほしいという強く熱いメッセージ。

深遠な教育の営みを託されたこの言葉は、稲梓中学校はもとより、この稲梓の地に脈々と受け継がれてきました。この言葉を学校経営の礎とした本校で、七十五年間で約四千三百人の生徒が学び、そして育ったことになりました。現在では、子供の教育は学校だけでなく家庭や地域との連携の中で進めていくことが求められています。しかし、この稲梓の地においては創立当時より大切にされてきたことのようにです。他校の先生方からは、「稲梓中といえば稲作」と言われるほどに大切にしてきた稲作活動は昭和五十五年に始められました。もちろん、この活動も地域の皆様方の支援をいただきながら継続することができました。日本人の主食である米。古の昔より絶やさず受け継いでいるこの活動に年間を通して取り組むことで、働くことの尊さ、自然の恵みへの感謝、人との協働の大切さ等々と教室の中だけでは得られない数多くの学びを子供たちは生きる糧として身に付けていくことができました。もちろん、家庭や地域の連携は稲作活動に限ったものではありません。青少年健全育成会立ち上げに際して発足された「稲梓の教育と文化をすすめる会(教文会)」からの数々のご支援と見守り、校舎へ上る坂道や敷地内の草を人知れず刈っていただいた地域の方々、日常の中で生徒の姿を見守り、声掛けをいただいた地域の方々、そして生徒の心と体の健康を支えていただき、学校の教育活動にご理解ご協力をいただいた保護者の方々、そのように、地域の中の学校として存在してきた稲梓中学校で育ち、この学び舎を巣立っていった卒業生の皆様方は、今もなお大地に根を深く張り、強くしなやかに、そして人との関わりを大切に生き生きと生活しておられるものと信じています。

このことは、最後の在校生である四十一名の生徒にも受け継がれています。勤勉であり、仲間思いであり、そして粘り強い心は、創立から七十五年間、脈々と受け継がれてきたものだと感じています。

稲梓に生きる中学生は、令和四年の春より学び舎を移すこととなります。学び舎は変わろうとも、この稲梓という自然も人の心も豊かな地で生きていることを誇りとし、これからも梓の木のごとく強くしなやかに生きていくことを強く願っています。

最後になりますが、七十五年間の長きに渡り本校を支え、そして温かく見守っていただいた皆様、これまで本当にありがとうございました。これからも何十年、何百年と、この稲梓の地で育つ子供たちの明けゆく未来に幸多きことを祈念しております。



昭和 35 年



昭和 37 年 (新校舎完成)



平成 9 年



令和 3 年度 (閉校)

下田市立稲梓中学校の沿革

- | | | | |
|----|-----|-----|--|
| 昭和 | 22年 | 4月 | 稲梓村立稲梓中学校を創立し、稲梓、須原両小学校で授業開始 |
| | 23年 | 7月 | 新校舎（木造2階建）落成（箕作横瀬前385番地）
23日を開校記念日とし、28日に新校舎へ移転 |
| | 30年 | | 3月町村合併により、下田町立稲梓中学校と改称 |
| | 34年 | 3月 | 校歌制定（作詞 大木 実 作曲 岩井 真吾） |
| | 37年 | 5月 | 新校舎（鉄筋3階建）落成（箕作350番地） |
| | 46年 | 1月 | 下田市政施行により、下田市立稲梓中学校と改称 |
| | 55年 | 4月 | 稲作活動開始 |
| | 62年 | 10月 | 昭和61・62年度 文部科学省指定「勤労生産学習」研究発表会 |
| | 63年 | 8月 | 屋内運動場完成、技術科室・家庭科室完成 |
| 平成 | 6年 | 1月 | コンピューター室設置、音楽室講堂の改修 |
| | 9年 | 11月 | 創立50周年記念式典開催、記念写真集発刊 |
| | 11年 | 10月 | 平成9・10・11年度 下田市教育研究会指定研究発表会 |
| | 13年 | 8月 | コンピューター室パソコン入れ替え・改修工事 |
| | 25年 | 11月 | 平成23・24・25年度 下田市教育研究会指定研究発表会 |
| | 28年 | 12月 | 屋内体育館照明LED化 |
| | 30年 | 8月 | コンピューター室パソコン入れ替え |
| 令和 | 3年 | 3月 | GIGAスクール構想に伴うタブレット(iPad)整備 |
| | 4年 | 3月 | 下田市4中学校統合に伴い閉校 |

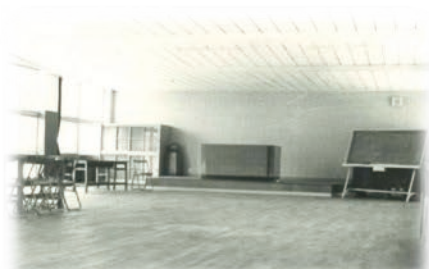
卒業記念写真

現校舎完成当初

閉校時



校長室



講堂
現音楽室



2階廊下



調理室



各教室



稲作活動41年の歴史



稲作活動開始当初(昭和57年ごろ)



昭和60年ごろ

平成2年ごろ



平成10年ごろ



平成20年

平成25年



平成30年

令和3年最後の稲作活動

昭和の時代



平成元年ごろより



平成10年ごろより

日市中学校 首采光表云





平成20年ごろより



令和元年より





- (1) 梓の葉 ・ 稲梓に自生する粘り強い広葉樹
・ 古く日本人の用いた梓弓の材料
- (2) 米 粒 ・ 稲梓には地区民の消費する米を生産し、なお余る水田
・ 米作りは日本人の心の故郷
- (3) 三角形 ・ 知・徳・体の均衡した優れた人格の形成

稲梓中学校校歌

作詞 大木 実 作曲 岩井 真吾
(昭和34年3月5日制定)

- | | |
|---|--|
| 1 天城嶺の 空晴れわたり
地に光り 明るく溢る
ふるさとの 恵み豊かに
身にうけて われら伸びゆく | 2 稲生沢の 流れのほとり
若草の 清きところは
世を照らす真理もとめて
たゆみなく いそしみ励む |
| 3 まなびやに 春秋三たび
師と友と むつみし月日
懐かしく 楽しきまどい
いつの日か また帰り来む | 4 箕作の 丘に望めば
遙かなり 明けゆく未来
新しき 時代担いて
はつらつと われら生きゆく
稲梓 稲梓 われらの母校 |

